

秋田内陸縦貫鉄道「ウィークデー定期」実証実験の概要 (平成15年7月～平成17年3月)

背景

秋田内陸縦貫鉄道は、沿線地域の少子高齢化やモータリゼーションの進展により年々輸送人員が減少している。また、沿線に住む高校生へのアンケートによると鉄道を利用しない要因として「運賃や定期券が非常に高い」という意見が大半を占めた。

学校や地方企業においても近年導入されている完全週休二日制に対応した「ウィークデー定期」を販売し、運賃の割高感を解消するとともに、パークアンドライドのための駐車場を整備し、より利用しやすい環境づくりを行う。

実験の概要

ウィークデー定期の販売

通勤・通学定期の現在の割引率に5/7をかけて割引率を高くするウィークデー定期（月曜～金曜のみ使用可）を発売する。

P & Rのための駐車場の整備

自宅から駅までマイカーを利用する通勤客のため、鷹巣、阿仁合、比立内の各駅にパークアンドライドのための駐車場を設置する。



実験の成果

通勤定期での輸送人員が実証実験開始前と比べて、30%も増加したことから、一定の効果がみられた。【実験前(14年度):14,220人、実験後(16年度):18,451人】

通学定期については、高校の統合や少子化の影響により直接の効果にはつながらなかったが、秋田市などの短大や専門学校に通う学生がウィークデー定期の導入により、アパートを借りていたのが、自宅から通勤するケースが増えたなどの効果があった。

実験後の状況

実験終了後も継続してウィークデー定期を実施
パークアンドライドについても継続して実施